

平成29年度相互交流を活かした人材育成講座（施設見学）実施結果報告

1. 概要

(1) 日時 平成30年1月16日（火）14:00～15:30

(2) 場所 独立研究開発法人 国立環境研究所
茨城県つくば市小野川16-2

(3) 参加者 14名
・ネットワーク会議 7名 事務局 4名
・環境政策部 1名
・環境企画課（温暖化対策担当） 2名

(4) 見学スケジュール

時間	見学施設	説明者
14:00 ～14:20	概要説明 紹介ビデオ 「国立研究開発法人 国立環境研究所」 (レクチャールーム)	企画部広報室
14:25 ～14:50	地球温暖化研究概要説明 (レクチャールーム)	地球環境研究センター 気候変動リスク評価研究室 江守室長
15:00 ～15:20	循環・廃棄物研究等	資源循環・廃棄物研究センター 基盤技術・物質管理研究室 山本主任研究員

2. 講座概略

(1) 国立研究開発法人国立環境研究所概要説明

国立環境研究所に到着後、企画部広報室の方から国立環境研究所の沿革・概要について説明をしていただいた。

(2) 地球温暖化研究概要説明

地球環境センター（気候変動リスク評価研究室）江守室長

【低炭素研究プログラムとは】

- ・低炭素社会を街づくりとからめていかに実現していくか。
- ・低炭素社会の何をめざしていくのか。

を大きなテーマとして、大まかに以下の3つの分野で研究をしているとのことであった。

①観測研究

二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスについて、地上や船舶、航空機、人工衛星（GOSAT）の他、東京スカイツリーにも計測器をおいて測定し、温室効果ガスと

地球温暖化の関連性について研究をしている。

②リスク研究（気候変動予測モデル他）

温暖化の将来予測・理解として、異常気象と温暖化の関連性を検証している。

異常気象と温室効果ガスの関連性を検証するため、温室効果ガスが発生していなかったらと仮定したシナリオと実際のデータとを比較し、温室効果ガスの影響を調べている。

③政策評価研究

パリ協定等の国際交渉、世界を対象とした持続可能な低炭素社会構築の必要性と実現性の道筋を示す総合的な研究をしている。

（3）資源循環・廃棄物研究概要説明・研究棟見学

資源循環・廃棄物研究センター 基盤技術・物質管理研究室 山本主任研究員

レクチャールームから移動して資源循環・廃棄物研究棟を見学しながら、国立環境研究所ではどのような研究をしているのか、お話しをしていただいた。

燃烧実験用に粉碎された様々な物質



パソコンなど様々な物質を実験用に細かく粉碎し、燃烧実験をしている。

研究棟の熱処理プラントを見学

3. まとめ

90 分間の限られた見学時間で複数テーマを申し込んだため、駆け足で見学することになってしまったが、「国立環境研究所では現在どのような研究をしているのか」を現場の研究員から直接話を聞くことができたことや、研究棟、研究設備を見学できたことは、意義があったと考える。